



ヨーロッパの街角から

観光地 JAPAN を救え

知り合いの著名なドイツ人音楽家の話。彼は毎年日本でコンサートを開催しているが、今秋の日本公演は放射線不安からキャンセルになった。公演は東京以西のため本人は行くつもりだったが、家族にどうしてもと反対されたそうだ。

日本人にとって、やるせない話はいくらでもある。

先日、福島から来た知人を連れドイツ人Bさん宅を訪ねた。親日家のBさんは気を利かせて日本の煎茶を出してくれたが「このお茶は放射能に汚染されていないから安心して!」。これを日本語に訳して説明しろというから閉口した。安心するどころか、言わずもがなのことを言われ故郷の現実を突きつけられる心苦しさに考えが至らないらしい。

さらにこんな話も。私と同じ街に住む日本人夫婦が用事で帰国している。この前会った時は、東北の実家へ立ち寄るかどうか迷っていた。娘さんは4歳。自治体の発表によれば放射線量は0.7~1.4 μ Sv/h。

安全な国、美しい国。日本がこれまで培ってきたポジティブなイメージは原発事故により吹き飛んでしまった。日本のいいイメージは先人が苦労しながら育ててきたもの。私でさえ日本のイメージを傷つけないよう気をつけて生活している。今感じるのは悲しさであり怒りであり、イメージ回復の道のりは果てしなく遠い。

さらに深刻なのは外国人の日本に対する興味が薄れる傾向にあること。日本へ行きたいけど行けない、日本食を食べたいけど食べられない、あるいは風評なら改善の余地もあろう。しかし、興味そのものが失われてはどうしようもない。

外国人の目線で観光地 JAPAN を眺めるとき、今すぐ求めたい行動がある。観光情報のひとつとして詳細な放射線量地図、それも全国版の公開を提案したい。各自治体が測定しているデータを基に見やすい地図を作成し、例えば観

光庁や観光局の Web サイトに掲載する。先ほど観光局の運営するドイツ語サイトを開いてみたが、放射線に関する情報は見当たらなかった。まるで何事もなかったかのようだ。観光地本位ではなく日本を訪れる外国人の身になれば、別のやり方があってしかるべきだろう。

日本の地理に暗い外国人にとって、日本は全体が放射線のグレーゾーンに包まれている。どの地域が安全でどの地域が注意を要するのか判断できないのは当然だ。明確な線引きをしない限り、日本を覆う曖昧な放射能汚染のイメージは払拭できない。それをあたかも『海外の風評』と呼ぶような傲慢な日本にはなるまい。外国人観光客の気持ちを取り戻したいなら、まず情報を提供する。そして個人個人の基準で来るか来ないか判断してもらおうのが筋というもの。

楽観的な話もないわけではない。どちらかといえば若い世代の方が放射線への恐怖心が薄いようだ。誤解のないよう説明すると、放射線に無関心という意味ではなく、危険性を知った上で安全に旅行できる地域かどうか、自分で情報を集め判断している。これが情報弱者には難しい。

観光情報に放射線のことを載せるなど非常識? これは決してネガティブな PR ではない。世界の日本ファンの気持ちに誠意を持って応える、ごく当たり前の姿勢と私は思う。

(在独ジャーナリスト 松田 雅央)



ドイツの書店で売られているガイドブック